

とらわれ

rocksan

運命をと言う言葉を口にすると君はいつも暗い顔をする君は自分のこれまでとこれからを比べるとこの先はもう落ちていくだけなのだと信じてしまっているから君の現在は確かにぎりぎりの状態で支えられている決して恵まれたものではないだろうそれでも君は今を必死に生きているそれは抗いではない墮落とはまったく違う運命に遵守しているのだその身の儚さを知りながらも君が寂しい顔を見せる時僕に何が出来るのだろうか特別なものなんて持たない僕に君の言う運命の重さは量れはしないだからせめてその重みを分けて欲しい君のずっとこの場所でたぶん長くないであろう未来を過ごすならば僕はその日まで君の傍にいるつもりだ例え君がそれを拒んだとしても一瞬でも君の悲しみが消えるまで僕は僕のできる事したいんだだって僕の運命に君の思い出がないなんてそれは不幸でしかないのだから君に出会えた運命を僕は幸運だと感じているその想いを君に少しでも感じて欲しいんだ